

地理歴史科（地理総合）学習指導案

- 1 単元名 植民地支配の歴史と人々の生活の関わり-サハラ以南のアフリカと東南アジアの事例から-
「B 国際理解と国際協力」の「(1) 生活文化の多様性と国際理解」

2 単元目標

- (1) 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が、地形、気候などの自然環境や、歴史的背景や経済発展などの社会環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、それらの地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。
- (2) 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。
- (3) 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、「地理的環境を踏まえた生活文化の理解と尊重」などの主題を設定し、「多様な生活文化に配慮して、世界の人々が共存するためにはどのような工夫が必要なのだろうか」などを、多面的・多角的に考察し、表現する。
- (4) 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

3 単元計画(全体4時間)

(1) 指導計画

- ・歴史的背景が人々の生活に与える影響 1時間
- ・植民地支配の歴史と人々の生活の関わり 3時間(本時3/3)

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (1)	【学習課題】<単元を貫く問い>「植民地支配の歴史が現在の生活文化や産業にどのような影響を与えているだろうか」						
	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景が人々の生活に与える影響 	<ul style="list-style-type: none"> 【ねらい】歴史総合の学習を基に、植民地支配や社会体制下の影響を予想する。 ・大航海時代以降、ヨーロッパ諸国の世界進出が東南アジアやアフリカに与えた影響をまとめる。 			●	<ul style="list-style-type: none"> (B) 植民地支配については、言語や宗教、モノカルチャー経済に関する記述をしている。 (C) 教科書の図や本文をまとめるよう支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート(1)の記述
第2次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活文化に残る旧宗主国の影響 	<ul style="list-style-type: none"> 【ねらい】生活文化や経済を基に、旧宗主国の影響を考察する。 ・東南アジアとアフリカの事例(写真)から、旧宗主国の影響を考察する。 ・国境の種類や公用語の特徴に着目し、それぞれの地域でみられる特徴を考察する。 		●	<ul style="list-style-type: none"> (B) 写真から共通点を読み取り、その現象がみられる背景を記述している。 (B) それぞれの地域でみられる特徴を記述している。 (C) 写真の着眼点を指摘するなどの支援を行う。 (C) 既習事項や地図帳の図を示し支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート(2)の記述 ・ワークシート(3)(4)の記述 	

	・植民地支配の影響が残るアフリカの産業	・農業や鉱業に注目し、モノカルチャー経済となっている国を調べる。 ・地域ごとに工業化が進んでいる国を挙げ、工業化が進んだ理由を考察する。	●	●		(B)教科書の図や地図帳の表を基に、モノカルチャー経済の国がまとめられる。 (B)経済発展が進んだ時代の背景に注目し、考察している。 (C)主な輸出品に注目し、まとめるよう促す。 (C)各国・地域の戦後の歴史を踏まえて考察するよう促す。	・ワークシート(5)の記述を基に評価する。 ・ワークシート(6)の記述を基に評価する。
第3次 (1)	【学習課題】<問い>「サハラ以南アフリカの抱える問題点と解決策は何か、提言をしよう」						
	・人々の生活の変化と経済成長への取組	【ねらい】前時までの学習を基に、生活の変化と経済成長への取組を理解する。 ・生活の変化と都市への人口集中についてまとめる。 ・東南アジアとアフリカの経済成長に向けた取組についてまとめる。 ・サハラ以南アフリカが抱える問題について、解決策を考察し、まとめる。	●	○	○	(B)教科書の記述を基に、変化と課題がまとめられる。 (C)教科書の記述をまとめるよう促す。 5(1)参照 5(2)参照	・ワークシート(7)の記述を基に評価する。

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

- ア 既習事項を基に、両地域における多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- イ それぞれの地域が抱える問題を基に、よりよい社会の実現に向けた解決策について構想する。

(2) 本時の展開

(○…「評価に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	前時の復習	・東南アジアとアフリカに見られる植民地支配の影響の例を確認する。	・前時までの学習に触れる程度にする。
展開	・生活の変化と都市への人口集中 ・経済成長に向けた取組	・サハラ以南アフリカを中心に、生活と都市化の現状と課題を簡単にまとめる。 ・経済成長に向けた取組をまとめ、発表する。	●ワークシート(7)【知】 ○ワークシート(8)【思】
まとめ	・まとめ	・発表を受け、望ましい取組を改めて考え、まとめる。	○ワークシート(9)【態】

(3) 本時の評価規準 5(1)(2)参照

5 評価問題(評価材料)及び評価規準

(1) ワークシート(8)の評価規準【思考・判断・表現】

サハラ以南アフリカの経済成長に向けた取組について、多面的・多角的に考察・表現している。
ワークシート(8)の内容

・サハラ以南アフリカの経済成長に向けた取組をまとめ、表現する。

ワークシート(8)の判断基準

「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例
・経済成長に向けた取組をまとめ、表現しようとしている。
「十分満足できる」状況(A)と判断される例
・地域ごとの共通点や違いに言及し、まとめようとしている。
「努力を要する」状況(C)と判断される生徒の例と教師の指導
・取組をまとめ、表現することができない。→具体的な国を挙げ、その国の取組をまとめさせる。

(2) ワークシート(9) の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

サハラ以南アフリカにおける望ましい取組について、多面的・多角的に考察・表現している。

ワークシート(9)の内容

・サハラ以南アフリカにおけるよりよい社会の実現に向けて主体的に解決策等を考えることができる。
--

ワークシート(9)の判断基準

「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例

・サハラ以南アフリカの問題と解決策をまとめようとしている。

「十分満足できる」状況(A)と判断される例

・東南アジアの事例を踏まえて、アフリカの問題と解決策をまとめようとしている。
--

「努力を要する」状況(C)と判断される生徒の例と教師の指導

・解決策を提案することができない。→前時やワークシート(8)の内容に注目し、解決策を考察するよう促す。

6 成果と課題

(1) 成果

この単元は歴史総合の学習を活用できるため、歴史が専門の方も扱いやすい単元であると考えられる。東南アジアやアフリカの植民地支配は歴史総合で既に学習済みであったため、地理総合では詳細な説明は省略できた。授業では必要に応じて既習事項の確認をしながら進めた。歴史学習の色が強い内容に、生徒達は普通の授業とは興味の示し方が違うように感じられた。

本単元では、地理Bや地理探究における比較地誌の手法を活用した。授業を通して、生徒は、第二次世界大戦後に植民地から独立したという歴史的背景(=社会条件)だけではなく、地形や気候といった自然条件など類似点のある二つの地域が、経済や社会の発展という観点では大きく異なることを読み取ることができた。また国内の民族分布と対立、特徴的な一次産品の有無など、植民地支配の過程で形成された要因がアフリカでは大きな影響を与えていることも読み取ることができた。戦後における各国の国家運営の違いで、経済発展の進展などに多様性がみられることを、生徒は理解できたのではないだろうか。

資料提示などはロイロノート・スクール(株式会社LoiLo, 以下「ロイロノート」と表記)を使用した。写真や図を拡大することで着眼点を示し、アプリ上で書き込みを行って注目させ、重要事項を整理できる点は便利である。本単元では、ロイロノートでは主に教員側からの資料提示に活用した。

(2) 課題

本校の生徒は、読図や内容の要約は問題なく行うことができる。多くの生徒は、自分の意見を表現する際も、B評価段階の基準は問題なくクリアできた。ただし、ワークシート(9)では、A評価とした生徒は少ない。なお、評価については、A12%、B85%、C3%(1クラス)とした。生徒の提案内容は、「工業化に関するもの」(33%)「教育に関するもの」(21%)が多数を占めた。これらはワークシート(6)、(7)でまとめた内容の中から生徒の印象に残ったものに注目して記述していると思われる。本単元を実践してみて、生徒が多面的・多角的に考察し、意見をまとめるような取組を促すことが今後の課題として挙げられる。

1人1台端末の活用も課題である。ロイロノート等のアプリで生徒の意見を集約し、全体で共有できるとよいと思うが、キーボードでの文字入力に時間がかかるため、今回は使用を見合わせた。代わりに、席周辺の生徒との話し合いと複数の生徒を指名しての発表で、生徒間の意見共有を行った。今後、1人1台端末の活用を積み重ねて生徒のICT技能が向上すれば、授業でのロイロノート活用がよりスムーズになると思う。

振り返りの場面で、「歴史と地理とが意外に関連があって驚いた」という記述した生徒がいたことに、私自身が驚いた。地理と歴史とは全く別のものと考えている生徒が一定数いることを、教員は認識したほうがよい。「地理的な見方・考え方」を働かせる上で、歴史科目や公民科目の知識も必要である。授業において、互いを結びつける科目横断的な考察などを行う必要性を改めて感じた。

7 参考文献

- ・教科書『高等学校 新地理総合』(帝国書院 2022年)
- ・地図帳『新詳高等地図』(帝国書院 2022年)
- ・副教材『新詳地理資料 COMPLETE 2022』(帝国書院 帝国書院 2022年)